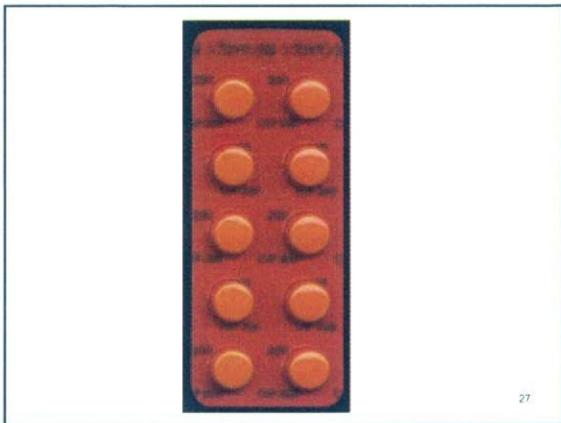




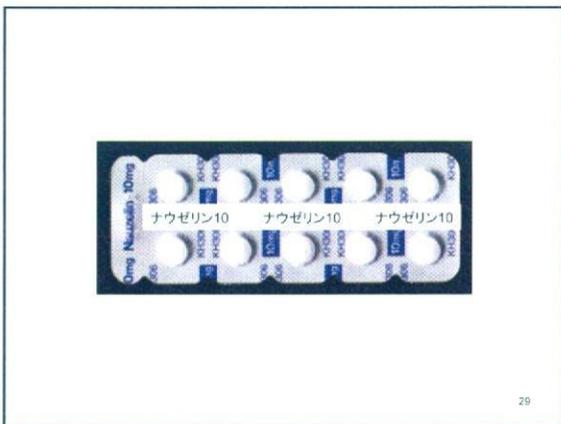
(12) ?

26



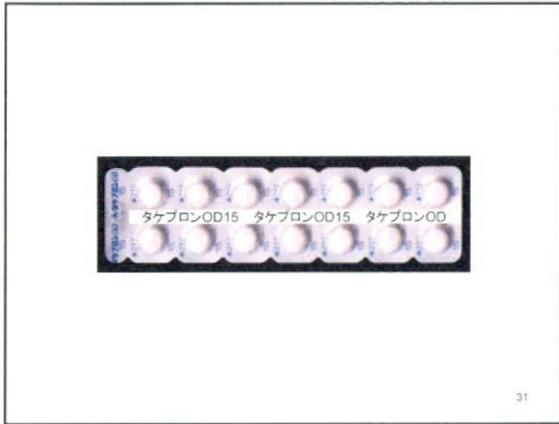
(13) ?

28



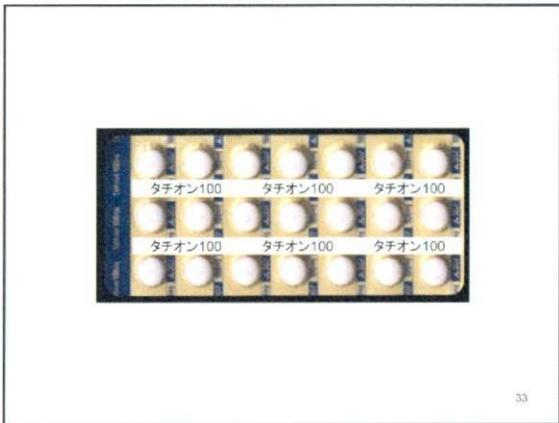
(14) ?

30



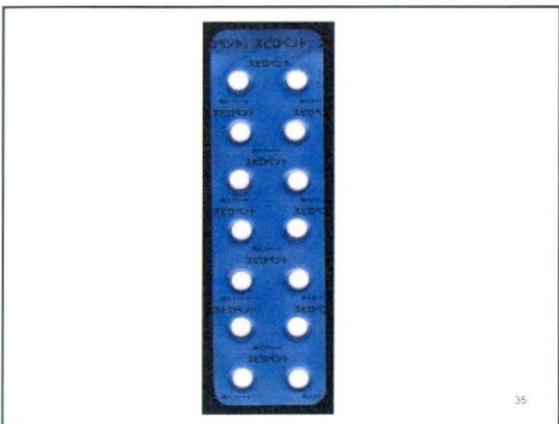
(15) ?

32



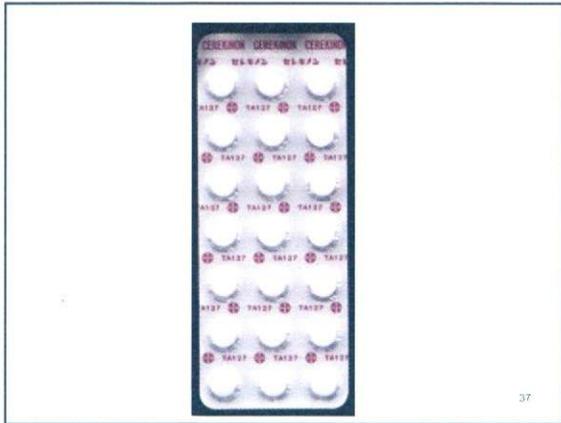
(16) ?

34



(17) ?

36



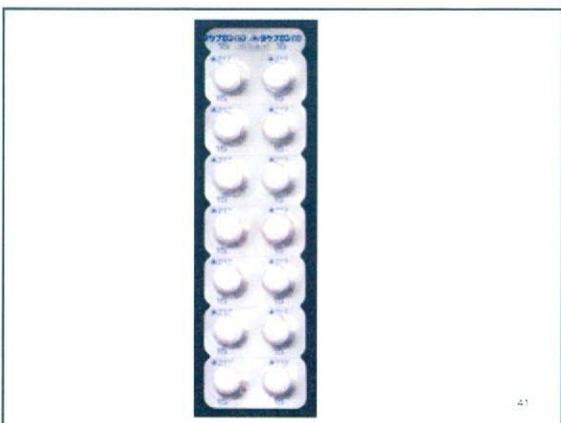
(18) ?

38



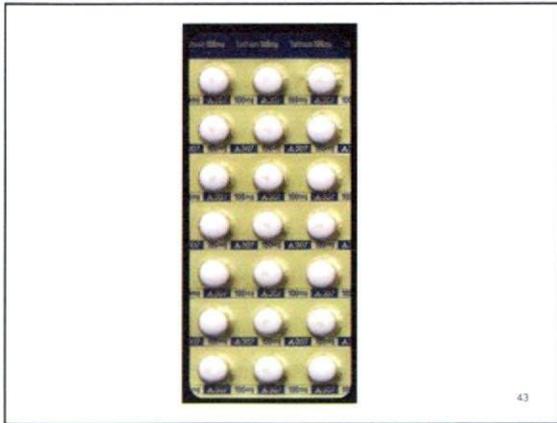
(19) ?

40



(20) ?

42

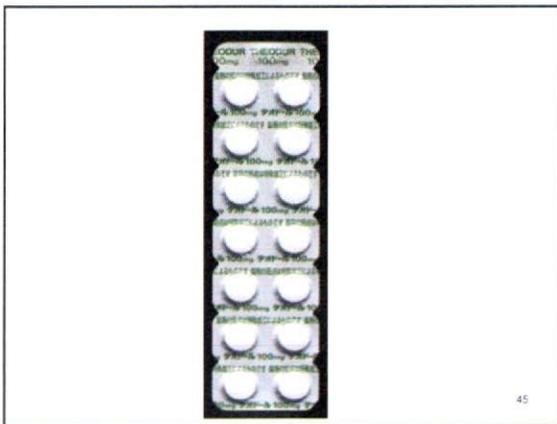


43

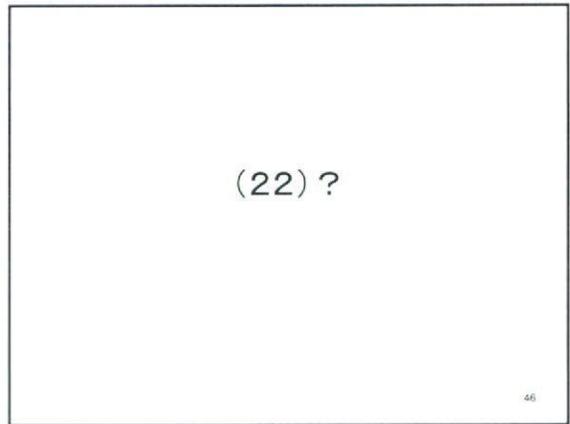


(21) ?

44

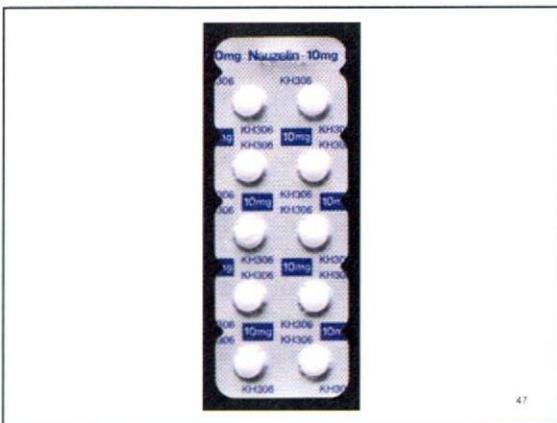


45

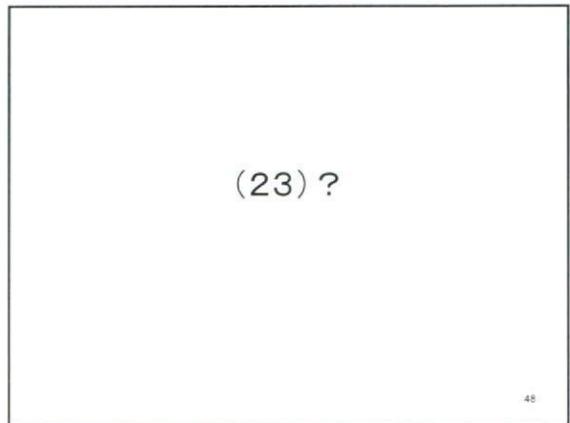


(22) ?

46

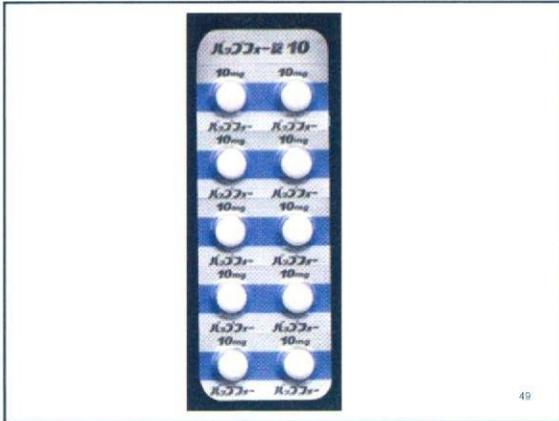


47

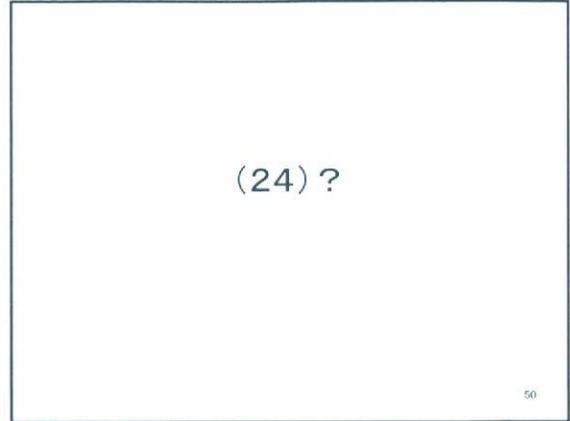


(23) ?

48



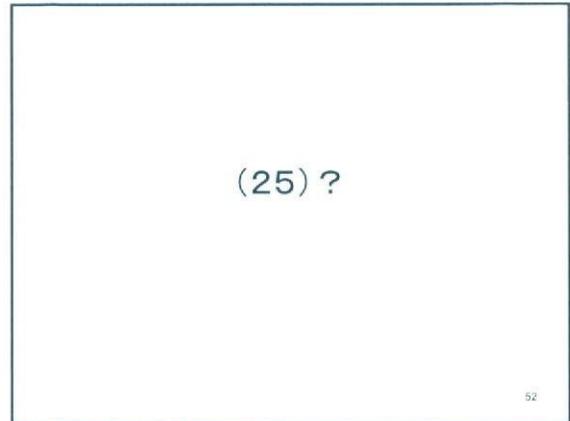
49



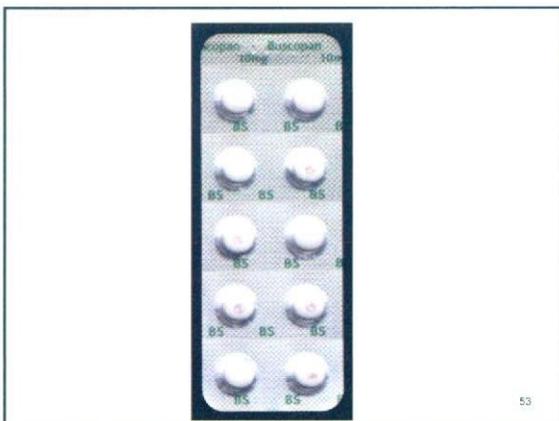
50



51



52



53



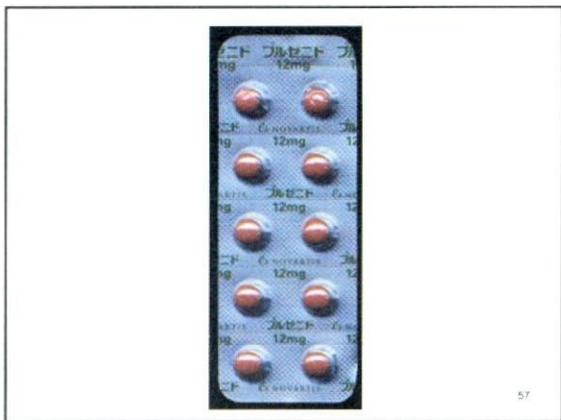
54



55

(27) ?

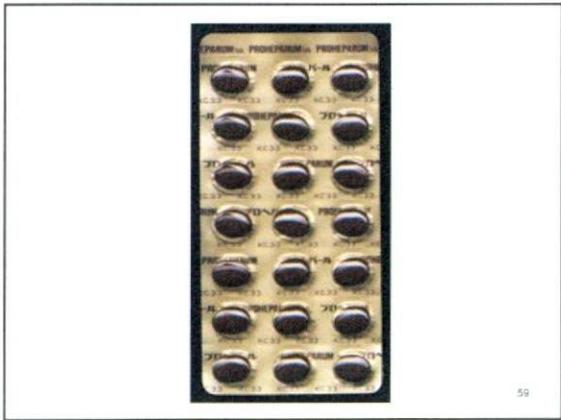
56



57

(28) ?

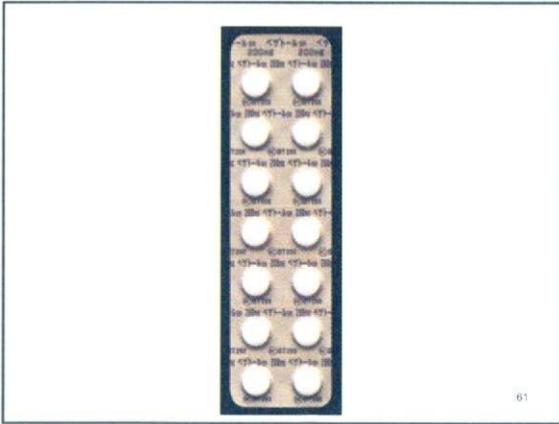
58



59

(29) ?

60



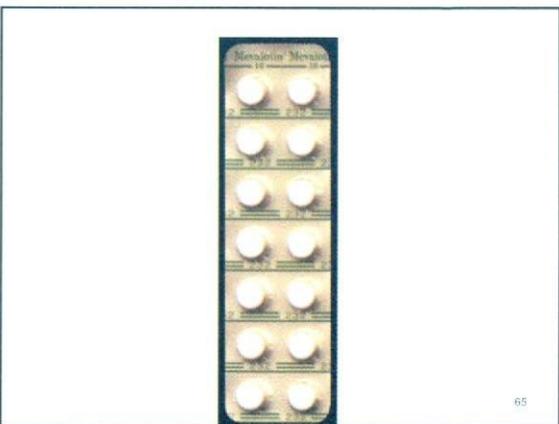
(30) ?

62



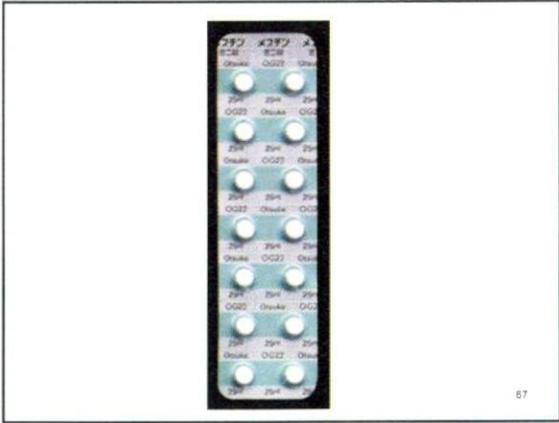
(31) ?

64

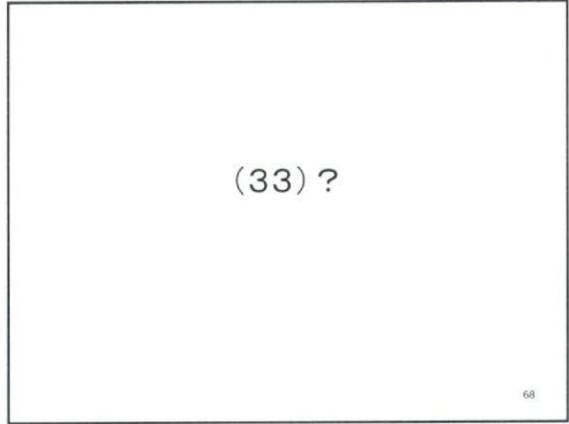


(32) ?

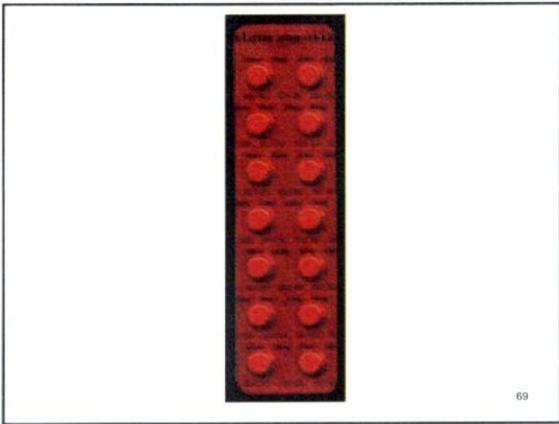
66



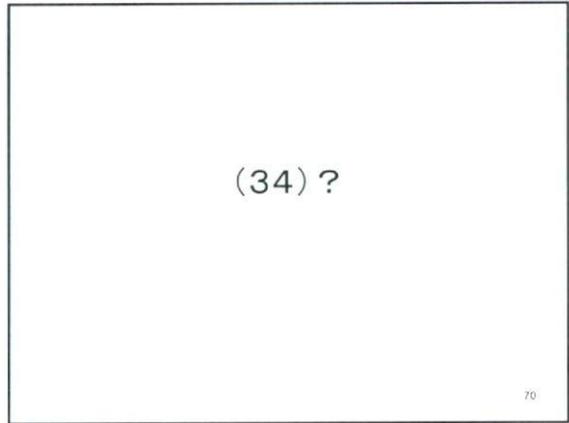
67



68



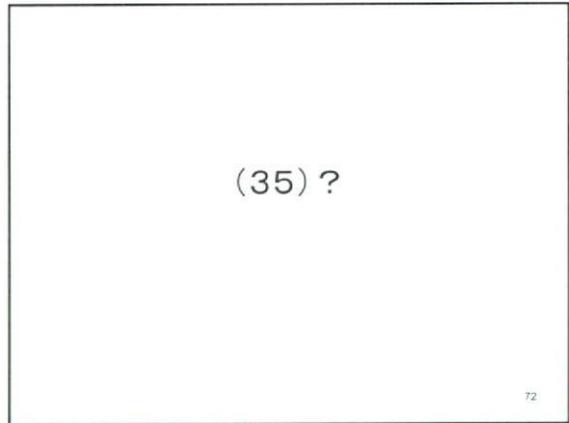
69



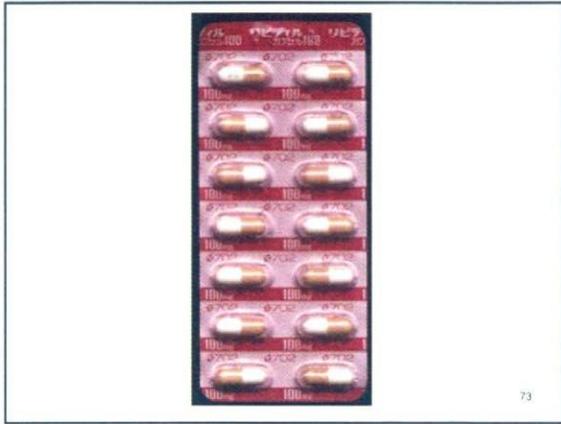
70



71



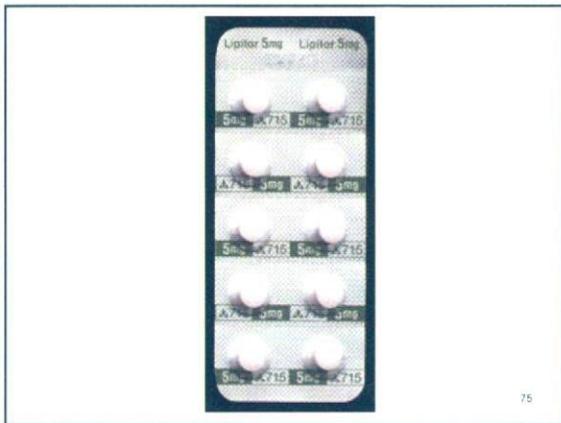
72



73

(36) ?

74



75

(37) ?

76



77

(38) ?

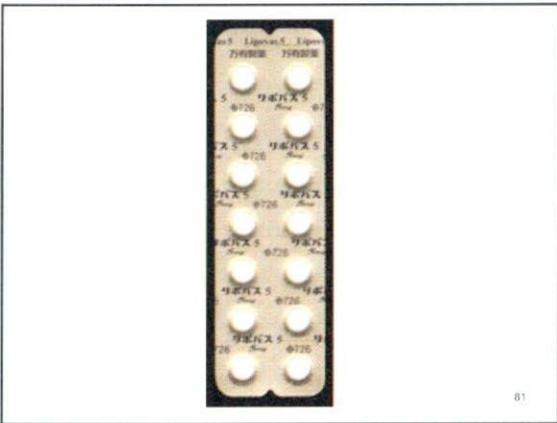
78



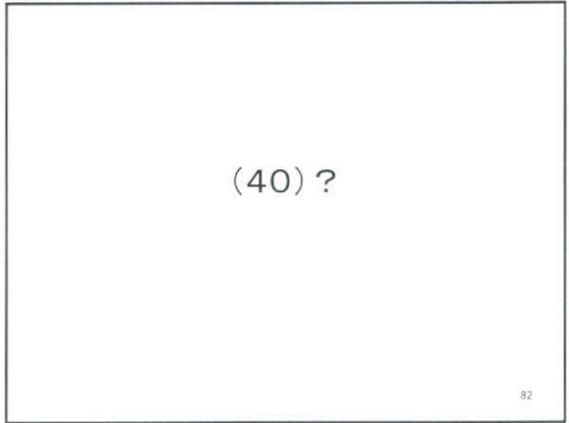
79



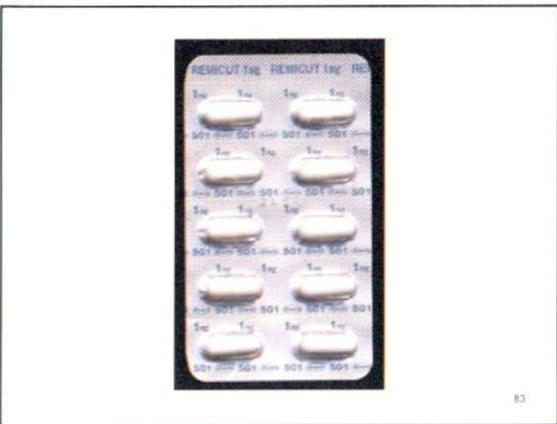
80



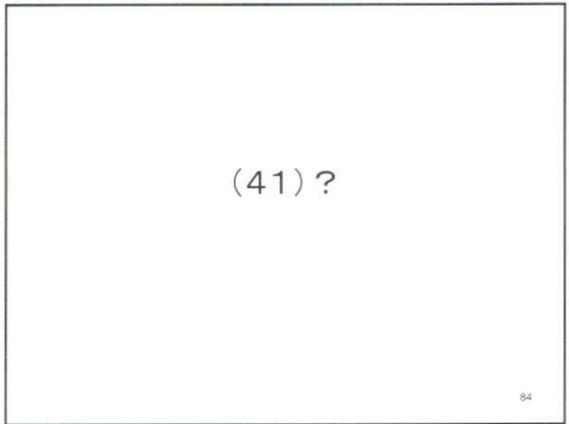
81



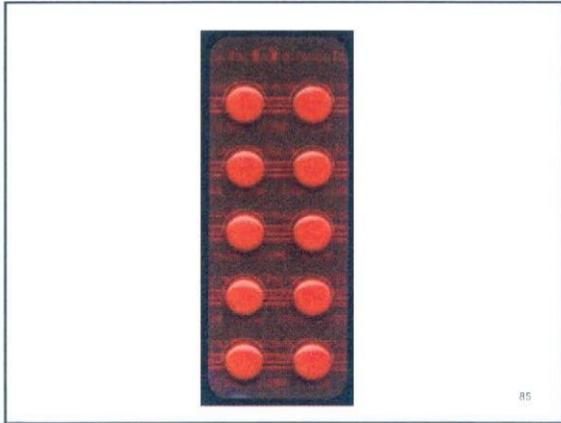
82



83



84



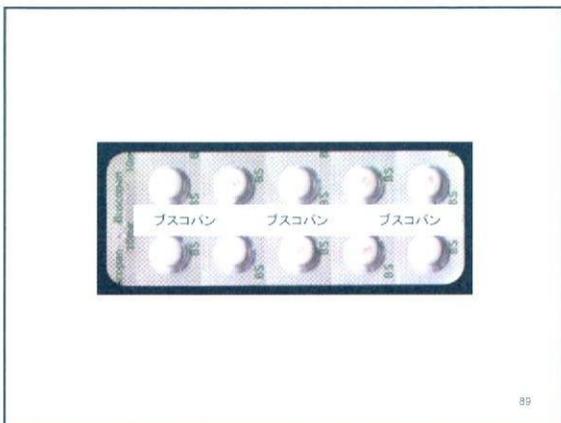
(42) ?

86



(43) ?

88

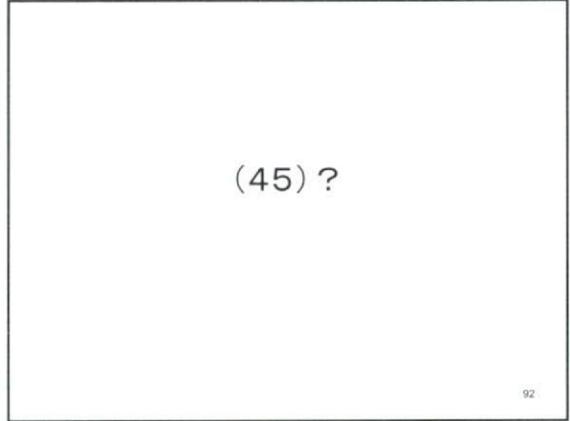


(44) ?

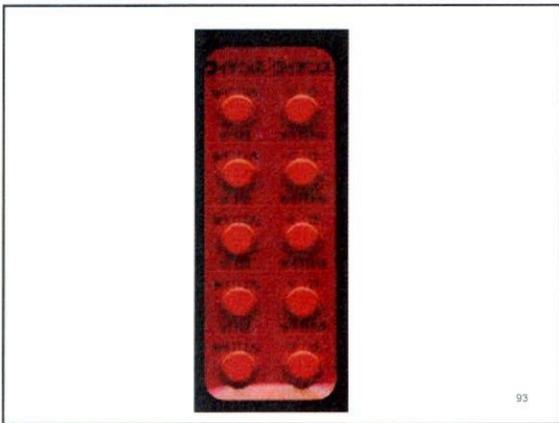
90



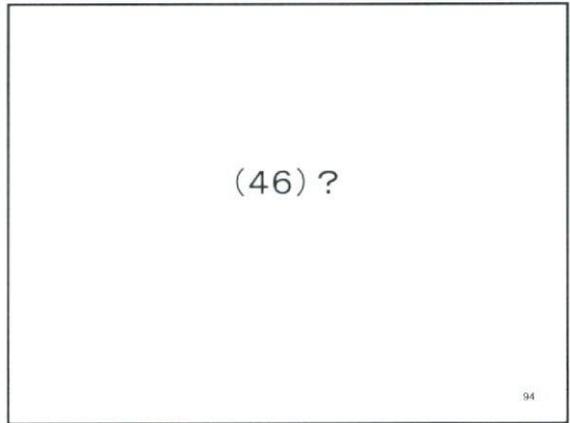
91



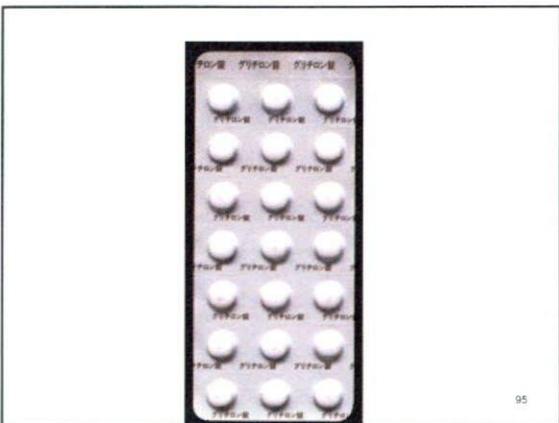
92



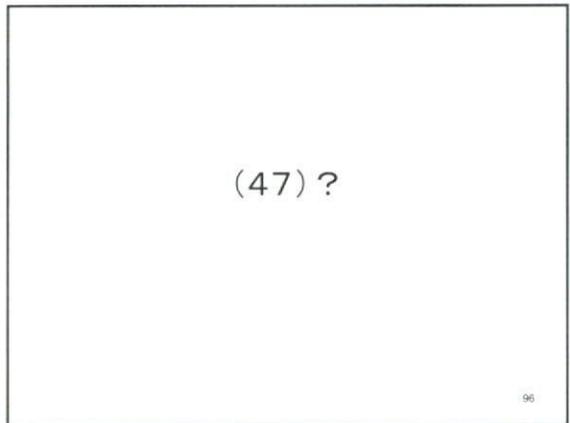
93



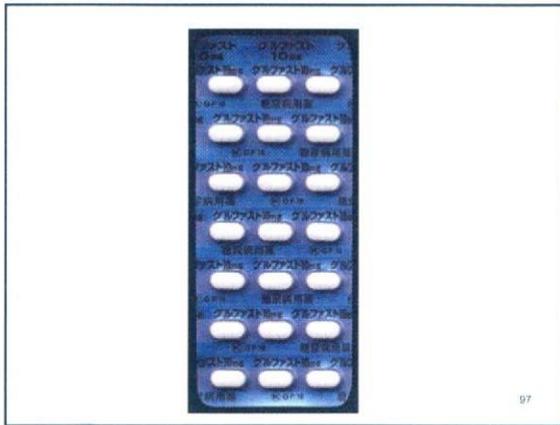
94



95

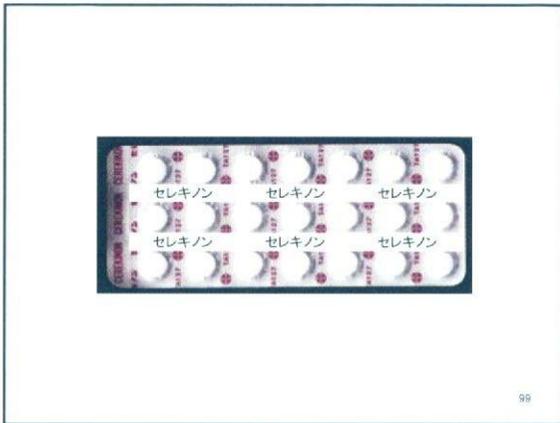


96



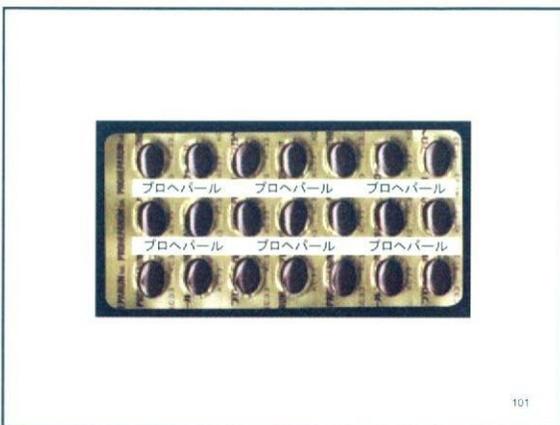
(48) ?

98



(49) ?

100



(50) ?

102

実験3終了です

ありがとうございました

103

平成17年11月11日

各位

厚生労働科学研究主任研究者
昭和大学病院薬剤部長
村山純一郎

点眼容器と点鼻薬、下剤、抗真菌剤などが入った容器とが酷似しているため医療従事者や患者さんが薬品を取り違い誤使用した結果が厚生労働省薬品・医療機器用具安全対策課にアクセシント事例として報告されています。

点眼薬は粘膜や囊から形成されている極めて繊細な「眼」という器官に直接滴下できるような生理的条件が整えられた薬剤で、鼻粘膜、皮膚、消化管に使用される薬剤とは剤質が異なります。しかし、点眼薬を収納する包装・容器につきましては諸般の事情により点鼻薬、下剤などの容器に酷似しており、使用者に錯誤を招いています。

点眼薬と他の薬品との誤薬を防止するためには、点眼薬の容器を他の薬品の容器と明らかに異なるよう「排他性」を持たせることが重要です。

つきましては、ご多忙の折、お手数ではございますが、皆様には以下の調査書に記載された設問にご回答いただき「容器類似性による薬品取り違い防止に向けた点眼薬容器のあり方に向けた調査」にご協力いただきたく、お願い申し上げます。

今回の調査への協力は自由意志で決めてください。強制するものではありません。
調査に関するお問い合わせは以下までお願いします。
昭和大学病院薬剤部（担当：竹ノ内） 電話：03-3784-8469

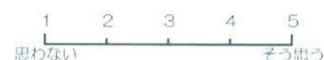
調査書

職種（1医師、2研修医、3看護師、4病院診療所薬剤師、5薬局薬剤師、6薬学院生、7薬学生、8事務職員）

点眼薬の誤薬を防止するために求められる容器の機能と形状について次の設問にお答えください。

1 点眼薬容器形状についておたずねします。

(1) 点眼容器の形状は、他の薬品との取り違い事故に影響を与えていると思いますか。

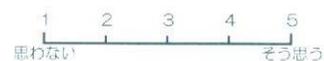


(2) 点眼容器の形状を、他の薬品容器と異なった点眼薬独特の形状にすることで、他の薬品との取り違い防止ができると思いますか。



2 点眼容器を点眼薬独特の専用容器とすることについてお聞きします。

(1) 点眼専用の形状は、容器キャップだけを専用の形状へ変更することは識別に役立つと思いますか。



(2) 点眼専用の形状は、容器本体だけを専用の形状へ変更することは識別に役立つと思いますか。



(3) 点眼専用の形状は、容器キャップおよび本体の両方を専用の形状へ変更することは識別に役立つと思いますか。



(4) キャップの形状を変えたとしたら、どのような形状が他薬と比べ取り間違いを防止できると思いますか。○で囲んでください。（複数回答可）

- | | | | |
|-----|-----|-------|-----|
| 円柱 | 三角柱 | 四角柱 | 多角形 |
| 羽付き | 台座形 | 〔その他〕 | |

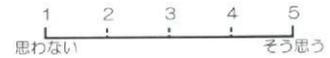
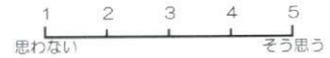
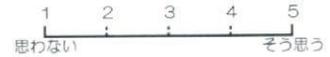
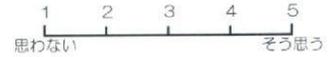
(5) 本体の形状を変えたとしたら、どのような形状が他薬と比べ取り間違いを防止できると思いますか。○で囲んでください。（複数回答可）

- | | | | |
|-------|------|------|-------|
| 円柱 | 三角柱 | 四角柱 | 多角柱 |
| 円形平型 | 三角平型 | 四角平型 | 多角形平型 |
| 〔その他〕 | | | |

(資料4)

3 点眼薬と他の薬品、また、点眼薬同士間での識別に、点眼薬キャップまたは本体、その両方に独特の形状を導入することについてお聞きします。眼薬の容器形状は「点眼薬」として独特の形状であれば良いと思いますか。

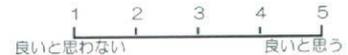
- (1) 容器形状を薬効分類（適応）ごとに変えることは識別に役立つと思いますか。
- (2) 容器形状を薬品（成分）ごとに変えることは、識別に役立つと思いますか。
- (3) 容器形状を薬品および規格ごとに変えることは識別に役立つと思いますか。
- (4) 容器形状を薬品、規格、容量ごとに変えることは識別に役立つと思いますか。



4 点眼薬の本体にピクトグラム（絵文字）を入れることへの考えをお聞かせください。



5 点眼薬のキャップに点字を入れることへの考えをお聞かせください。



6 点眼容器を1回使い捨て容器（ディスポ定量容器）とすることへの考えをお聞かせください。



7 点眼容器本体ラベルに記載する事項は何が必要とお考えですか。（複数回答可）

- (1) 薬品名
- (2) 一般名
- (3) 規格
- (4) 容量
- (5) 保管方法
- (6) 会社名
- (7) 会社住所
- (8) 使用上の注意
- (9) 適応症
- (10) 有効期限
- (11) 用法・用量
- (12) 規制区分
- (13) その他、必要と思われる項目があれば教えてください。



[]

その他、ご意見がございましたらご自由にお書きください。

以上で調査を終わります。本調査は、平成17年度厚生科学研究の一環として実施しました。ご協力ありがとうございました。

<参 考>

平成17年度 医療安全推進週間

医療安全に関するワークショップ
(特定機能病院)・医療安全研究発表会

平成17年11月22日(火)

厚生労働省医政局

医療安全に関するワークショップ（特定機能病院）
・医療安全研究発表会 プログラム

平成17年11月22日
ヤクルトホール（新橋）

時 間	プ ロ グ ラ ム	備 考
9:30~9:50	受付（ワークショップ対象者及び聴講希望者）	【対象者】 ①特定機能病 院の管理者 ②特定機能病 院の安全管 理担当者 (上記代理も 含む) ③一般公募者 計520名
9:50~9:55	オリエンテーション	
10:00~10:05	開会挨拶 医政局長 松谷有希雄	
10:05~10:20	「医療安全対策における行政の取組について」 医政局総務課医療安全推進室長 田原 克志	
10:20~11:05	医療被害者の声を現場に生かす「医療安全への取組」 医療法人社団明芳会新葛飾病院セーフティマネージャー 豊田 郁子	
11:05~11:50	「安全な医療を求めて（院内医療事故調査委員会を中心として）」 南山大学法科大学院教授、弁護士 加藤 良夫	
11:50~12:00	質疑応答	
12:00~13:15	休憩（ワークショップ対象者）	
12:30~	受付（発表会聴講希望者）	【対象者】 ①特定機能病 院の管理者 ②特定機能病 院の安全管 理担当者 (全員) ③一般公募者 計520名 ※1題につき、 発表、質疑含 めて約15分 (10分発表、 5分質疑)
13:15~13:20	研究発表会開会挨拶 厚生労働省医療安全推進室	
13:20~13:50	「臨床指標を用いた医療の質向上に関する国際共同研究」 国立保健医療科学院政策科学部長 長谷川敏彦	
13:50~15:00	「医療事故の全国的発生頻度に関する研究」 神奈川県病院事業庁長 堺 秀人	
	「国内外における医療事故・医療紛争処理に関する法制的研究」 新潟医療福祉大学講師 藤澤 由和	
	「医療関連死の調査モデルの検討・医療関連死の調査システムの検討」 国家公務員共済組合連合会虎の門病院長 山口 徹	
	「集中治療部（ICU）における医療安全管理指針策定に関する研究」 山口大学医学部附属病院教授 前川 剛志	
(15:00~15:15)	休憩	
15:20~17:00	「医療機関における安全管理システム開発におけるリスクマップの構築及びリスクマネージャーの有用性に関する研究」 東京医療保健大学看護学科教授 貝瀬 友子	
	「NICU看護技術標準化によるエビデンスに基づいた安全対策に関する研究」 広島大学教授 横尾 京子	
	「医療安全を考えた産科施設の安全と質に関する研究」 日本赤十字社医療センター産婦人科部長 杉本 充弘	
	「医薬品の取り違え防止の視点に立った薬剤師業務のあり方に関する研究」 石巻市立病院診療部門薬剤科部長 佐藤 秀昭	
	「医薬品の外観に着目した類似性を回避するための情報提供のあり方に関する研究」 昭和大学病院薬剤部長 村山純一郎	
17:00	閉会挨拶	

方法

期間

2004年11月1日～11月24日

対象

昭和大学附属病院に勤務する薬剤師 123名
昭和大学病院に勤務する 看護師 190名

実施方法

各病院の薬剤部長・薬局長、各病棟の看護師長を通してアンケート用紙を配布し、郵送にて回収

調査項目

1. インシデント（取換え・誤使用）経験および表示ラベルへの認識について
（取り換え・誤使用経験の有無、表示ラベルへの印象、医薬品を認識する手がかり）
2. 表示ラベルの記載項目について
（薬効記載の必要性、不要な記載項目）
3. 表示色について
（色を規定すべき薬効）

結果

- ・ 薬剤師：アンケート回収部数 111部（回収率 90.2%）
- ・ 看護師：アンケート回収部数 109部（回収率 57.4%）

背景

	薬剤師	看護師
経験年数	1年未満	21.1%
	1年以上 3年未満	27.5%
	3年以上	50.5%
所属部署	一般病棟	72.5%
	ICU・CCU・NICU・救急	18.3%
	外来	8.3%

1. 取換え・誤使用経験および表示ラベルへの認識について

Q：アンプル剤を取り違えたこと、又は誤使用しヒヤリあるいはハットしたことはありますか？

ある — 薬剤師 86.5%
看護師 57.8%

Q：アンプル剤の表示にどのような印象をお持ちですか？

	薬剤師	看護師
間違えやすい	55.1%	46.7%
識別しにくい	38.8%	37.0%
識別しやすい	11.2%	4.3%
どれでもない	24.5%	27.1%
その他	1.0%	3.2%

複数回答結果

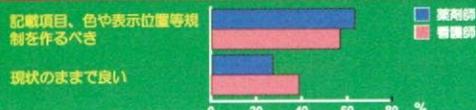
1. 取換え・誤使用経験および表示ラベルへの認識について

Q：医薬品を認識する際の手がかりとなるものは何ですか？

	薬剤師	看護師
使用されている色	55.0%	33.3%*
デザイン	51.4%	45.4%*
アンプル剤のサイズ	49.5%	30.6%*
手がかりはない	34.2%	45.4%*
液剤の色	32.4%	18.3%*

*p<0.05

Q：アンプル剤表示についてどのようにお考えですか？



医薬品の表示に関する法的規定

薬事法による記載項目

- ・ 製造業者名および住所
- ・ 名称
- ・ 日本薬局方の文字
- ・ 内容量
- ・ 製造番号または製造記号
- ・ …
- ・ など

表示色

毒薬

劇薬



アンプル剤表示に関する現状調査は見あたらない